

公立高等学校配置計画

(令和6年度(2024年度)～8年度(2026年度))

- ・令和6年度(2024年度)高校配置計画変更
- ・令和7年度(2025年度)高校配置計画変更
- ・令和8年度(2026年度)高校配置計画

令和5年(2023年)9月

北海道教育委員会

目 次

I	公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の概要	2
5	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の内容	
1	中学校卒業生数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4	配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業生数の推計及び推移	9
III	公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））学区別個表	
	空知南学区	11
	空知北学区	12
	石狩学区	13
	後志学区	15
	胆振西学区	16
	胆振東学区	17
	日高学区	18
	渡島学区	19
	檜山学区	20
	上川南学区	21
	上川北学区	22
	留萌学区	23
	宗谷学区	24
	オホーツク中学区	25
	オホーツク東学区	26
	オホーツク西学区	27
	十勝学区	28
	釧路学区	29
	根室学区	30

I 公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度）） 策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業生数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和6年度（2024年度）及び令和7年度（2025年度）の計画の一部を変更し、令和8年度（2026年度）の配置計画を策定するとともに、令和9年度（2027年度）から令和12年度（2030年度）までの見通しを示すものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和6年（2024年）に4万1,012人、令和7年（2025年）に4万83人、令和8年（2026年）に3万9,996人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、令和5年（2023年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」改定版（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを行う観点から、市町や圏域において複数の高校が設置されている場合、関係市町村の参画を得ながら高校の役割分担や定員調整も含めた具体的な配置の在り方を検討するなど、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

(1) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

(2) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(3) アンビシャススクールの導入

多様な学校選択幅のある学区において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことに重点を置くアンビシャススクールの導入を進める。

(4) 普通科新学科の設置

学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科及び地域や社会の将来を担う人材を育成し、現在・将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科の設置を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 地域連携校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）からの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

4 配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の概要

決定済みの令和6年度（2024年度）及び令和7年度（2025年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和8年度（2026年度）の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 令和6年度（2024年度）高校配置計画の変更

全日制課程

ア 学級増

令和5年度（2023年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った岩見沢東高校など14校で、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級増を行う。

イ 学科転換（普通科新学科の設置等）

(ア) 大樹高校について、普通科を普通科新学科である地域探究科に学科転換する。

(イ) 釧路湖陵高校について、普通科を普通科新学科である文理探究科に学科転換するとともに、理数科を理数探究科に学科転換する。

ウ 単位制の転換

札幌白陵高校について、生徒の特性や進路希望等を踏まえた教育課程の改善・充実を図るため、単位制を学年制に転換する。

(3) 令和7年度（2025年度）高校配置計画の変更

全日制課程

ア 学級減

1学級減とする深川東高校の学科は、生徒の進路動向を考慮し、総合ビジネス科とする。

イ 学級減・学科転換

1学級減とする室蘭工業高校については、建築科及び環境土木科を建設科に学科転換する。

ウ 再編統合・普通科新学科の設置・単位制の導入

岩見沢東高校及び岩見沢西高校の再編統合により設置する新設校について、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、地元の要望などを勘案し、募集学級数を普通科新学科（小学科検討中）2学級及び普通科4学級とするとともに、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、両学科に単位制を導入する。

エ 再編統合

富良野高校及び富良野緑峰高校の再編統合により設置する新設校について、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、地元の要望などを勘案し、募集学級数を普通科3学級、工業科1学級並びに農業科1学級とし、工業科の小学科は電気情報システム科、農業科の小学科は園芸観光デザイン科とする。

定時制課程

ア 定時制課程の設置

岩見沢東高校及び岩見沢西高校の再編統合により設置する新設校に定時制課程を設置する。

(4) 令和8年度（2026年度）高校配置計画

全日制課程

ア 学級減

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、在籍状況などを勘案し、函館水産高校で1学級の減を行う。

イ 再編整備

中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率などを総合的に勘案し、奈井江商業高校を募集停止とする。

定時制課程

ア 総合学科の設置

ニセコ町の決定により、町立ニセコ高校で、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、農業科を総合学科に学科転換する。

5 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立高校や私立高校の設置・廃止により、生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(4)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 学級減と併せた学科転換、地域連携校の導入等を実施する場合
- (4) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

II 公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の内容

1 中学校卒業生数

令和5年(2023年)(実績)	41,178人	(対前年比 667人減少)
令和6年(2024年)(推計)	41,012人	(対前年比 166人減少)
令和7年(2025年)(推計)	40,083人	(対前年比 929人減少)
令和8年(2026年)(推計)	39,996人	(対前年比 87人減少)

2 欠員の状況

(令和5年(2023年)5月1日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,744人 (89人)	1,186人 (-45人)	972人 (139人)	5,902人 (183人)

※()は対前年増減

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計	
		全日制	定時制	中等教育学校				
令和5年度	定 員 (人)	29,410	2,200	240	720	11,142	43,712	
	割 合 (%)	71.4	5.3	0.6	1.7	27.1	106.2	
公立高等学校配置計画	令和6年度	学級増(人)	560	0	0	0	0	560
		学級減(人)	-200	0	0	0	0	-200
		新設(人)	0	0	0	0	0	0
		募集停止(人)	-40	0	0	0	0	-40
		差引増減(人)	320	0	0	0	0	320
		定 員 (人)	29,730	2,200	240	720	11,142	44,032
		割 合 (%)	72.5	5.4	0.6	1.8	27.2	107.4
令和7年度	学級増(人)	40	0	0	0	0	40	
	学級減(人)	-80	0	0	0	0	-80	
	新設(人)	440	40	0	0	0	480	
	募集停止(人)	-640	-40	0	0	0	-680	
	差引増減(人)	-240	0	0	0	0	-240	
	定 員 (人)	29,490	2,200	240	720	11,142	43,792	
	割 合 (%)	73.6	5.5	0.6	1.8	27.8	109.3	
令和8年度	学級増(人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減(人)	-40	0	0	0	0	-40	
	新設(人)	0	0	0	0	0	0	
	募集停止(人)	-40	0	0	0	0	-40	
	差引増減(人)	-80	0	0	0	0	-80	
	定 員 (人)	29,410	2,200	240	720	11,142	43,712	
	割 合 (%)	73.5	5.5	0.6	1.8	27.9	109.3	

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和6年度（2024年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）は、1学級の定員を35人としている。

4 配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の学校別内訳

(1) 令和5年度（2023年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	R 5 (2023) 募集学級数	R 5 (2023) 開設学級数	R 6 (2024) 募集学級数
空 知 南	道	岩見沢東	全	普 通	5	4	5
	道	長 沼	全	普 通	2	1	2
空 知 北	道	深 川 西	全	普 通	3	2	3
石 狩	道	札幌白陵	全	普 通	3	2	2
	道	野 幌	全	普 通	3	2	3
	道	北広島西	全	普 通	5	4	4
	道	石狩翔陽	全	総 合	8	7	8
後 志	道	余市紅志	全	総 合	2	1	1
	道	倶知安	全	普 通	4	3	4
胆 振 東	道	鷗 川	全	普 通	2	1	2
上 川 南	道	富 良 野	全	普 通	4	3	4
上 川 北	道	名 寄	全	普 通	4	3	4
オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	2	1	2
オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	2	1	2
十 勝	道	清 水	全	総 合	3	2	3
	道	広 尾	全	普 通	2	1	1
	道	池 田	全	総 合	2	1	2
根 室	道	別 海	全	普 通	3	2	3
計		18校					

(2) 学級増減

① 学級増（網掛け＝決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 6 (2024)	空 知 南	道	岩見沢東	全	普 通	4	5	+1	4学級→5学級
		道	長 沼	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	空 知 北	道	深 川 西	全	普 通	2	3	+1	2学級→3学級
	石 狩	道	野 幌	全	普 通	2	3	+1	2学級→3学級
		道	石狩翔陽	全	総 合	7	8	+1	7学級→8学級
	後 志	道	倶知安	全	普 通	3	4	+1	3学級→4学級
	胆 振 東	道	鷗 川	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	上 川 南	道	富 良 野	全	普 通	3	4	+1	3学級→4学級
	上 川 北	道	名 寄	全	普 通	3	4	+1	4学級→5学級
	オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	1	2	+1	2学級→3学級
	オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	十 勝	道	清 水	全	総 合	2	3	+1	2学級→3学級
		道	池 田	全	総 合	1	2	+1	1学級→2学級
根 室	道	別 海	全	普 通	2	3	+1	3学級→4学級	
	(小計)		14校				+14		
R 7 (2025)	空 知 南	市	岩見沢緑陵	全	普 通	3	4	+1	5学級→6学級
R 8 (2026)	-								
計			15校				+15 (+600)		

② 学級減 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 6 (2024)	宗 谷 釧 路	道	利 尻	全	商 業	1	0	-1	2 学級→1 学級
			釧 路 湖 陵	全	普通(大学科)	5	4	-1	6 学級→5 学級
			釧 路 商 業	全	商業(大学科)	4	3	-1	4 学級→3 学級
			釧 路 明 輝	全	総 合	5	4	-1	5 学級→4 学級
			釧 路 東	全	普 通	3	2	-1	3 学級→2 学級
	(小計)		5 校					-5	
R 7 (2025)	空 知 北 胆 振 西	道	深 川 東	全	総合ビジネス	1	0	-1	2 学級→1 学級
			室 蘭 工 業	全	工業(大学科)	4	3	-1	4 学級→3 学級
			(小計)		2 校				
R 8 (2026)	渡 島	道	函 館 水 産	全	水産(大学科)	4	3	-1	4 学級→3 学級
	計		8 校					-8 (-320)	

- ・釧路湖陵、釧路商業、室蘭工業の小学科については、「(4) 学科転換」を参照。
- ・函館水産の減ずる小学科については、検討中。

(3) 再編整備

① 再編統合 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要	
						実施前	実施後			
R 6 (2024)	-									
R 7 (2025)	空 知 南	道	岩 見 沢 東	全	普 通	5	0	-5	5 学級→0 学級	
				定	普 通	1	0	-1	1 学級→0 学級	
		道	岩 見 沢 西	全	普 通	3	0	-3	3 学級→0 学級	
		道	新 設 校	全	普通科(新学科)	0	2	+2	6 学級	
				定	普 通	0	4	+4	岩見沢西高校校舎を使用	
					定	普 通	0	1	+1	1 学級
	上 川 南	道	富 良 野	全	普 通	4	0	-4	4 学級→0 学級	
				全	総合ビジネス	1	0	-1	3 学級→0 学級	
		道	富 良 野 緑 峰	全	電気システム	1	0	-1		
		道	新 設 校	全	園 芸 科 学	1	0	-1		
全		普 通		0	3	+3	5 学級			
				全	電気情報システム	0	1	+1	富良野緑峰高校校舎を使用	
				全	園芸観光デザイン	0	1	+1		
	(小計)		再編に伴う募集停止4校、新設2校							
R 8 (2026)	-									
	計		再編に伴う募集停止4校、新設2校					-4 (-160)		

- ・岩見沢新設校に設置する新学科の名称については、検討中。

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 6 (2024)	才ホーツク中	道	留 辺 薬	全	総 合	1	0	-1	1学級→0学級
R 7 (2025)	胆 振 東	道	穂 別	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
R 8 (2026)	空 知 北	道	奈井江商業	全	情 報 処 理	1	0	-1	1学級→0学級
計			3校					-3 (-120)	

(4) 学科転換 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要				
						実施前	実施後						
R 6 (2024)	十 勝	道	大 樹	全	普 通	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数 6学級→5学級				
					地 域 探 究	0	1	+1					
	釧 路	道	釧 路 湖 陵	全	普 通	5	0	-5					
					理 数	1	0	-1					
					文 理 探 究	0	4	+4					
					理 数 探 究	0	1	+1					
					釧 路 商 業	道	釧 路 商 業	全		国 際 ビジネス	1	0	-1
										流 通 経 済	1	0	-1
	会 計	1	0	-1									
	情 報 処 理	1	0	-1									
	R 7 (2025)	胆 振 西	道	室 蘭 工 業	全	建 築	1	0		-1	(再掲) 1学年総学級数 4学級→3学級		
						環 境 土 木	1	0		-1			
	R 8 (2026)	後 志 町	二 七 工	定	定	緑 地 観 光	1	0		-1			
						総 合	0	1		+1			

(5) 単位制の導入 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 6 (2024)	-						
R 7 (2025)	空 知 南	道	新 設 校	全	普通科(新学科)	2	(再掲) 岩見沢東・岩見沢西の再編
					普 通	4	
	上 川 南	道	新 設 校	全	普 通	3	(再掲) 富良野・富良野緑峰の再編
					電気情報システム	1	
					園芸観光デザイン	1	
留 萌	道	留 萌	全	情報ビジネス	1		
				電気・建築	1		
R 8 (2026)	-						

(6) 単位制の転換（網掛け＝決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	摘 要
R 6 (2024)	石 狩	道	札幌白陵	全	2	学年制に転換
R 7 (2025)	—					
R 8 (2026)	—					

(7) フィールド制の転換

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	募集学級数	摘 要
R 6 (2024)	—					
R 7 (2025)	石 狩	道	札幌あすかぜ	全	3	普通科に転換
		道	札幌平岡	全	6	普通科に転換
R 8 (2026)	—					

5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（令和5年(2023年)推計）

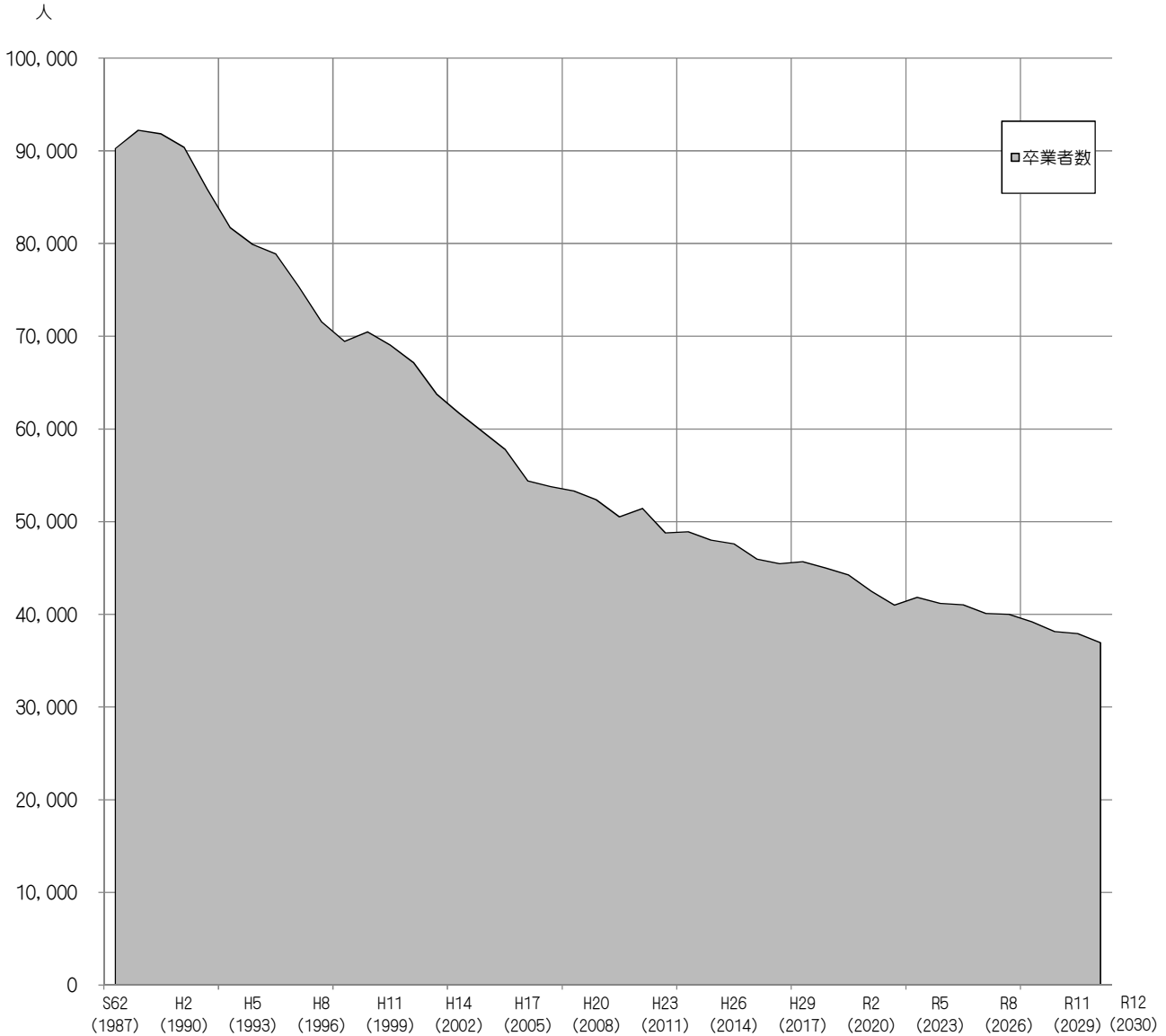
	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)	令和11年 (2029年)	令和12年 (2030年)
空知南	1,098	996 ▲ 102	1,049 +53	1,026 ▲ 23	998 ▲ 28	925 ▲ 73	970 +45	894 ▲ 76
空知北	870	832 ▲ 38	826 ▲ 6	819 ▲ 7	767 ▲ 52	722 ▲ 45	742 +20	723 ▲ 19
石狩	19,400	19,529 +129	19,272 ▲ 257	19,407 +135	18,926 ▲ 481	18,728 ▲ 198	18,877 +149	18,882 +5
後志	1,395	1,371 ▲ 24	1,378 +7	1,347 ▲ 31	1,306 ▲ 41	1,255 ▲ 51	1,291 +36	1,152 ▲ 139
胆振西	1,350	1,333 ▲ 17	1,222 ▲ 111	1,192 ▲ 30	1,201 +9	1,179 ▲ 22	1,059 ▲ 120	1,044 ▲ 15
胆振東	1,661	1,691 +30	1,708 +17	1,653 ▲ 55	1,631 ▲ 22	1,609 ▲ 22	1,587 ▲ 22	1,511 ▲ 76
日高	514	491 ▲ 23	469 ▲ 22	480 +11	438 ▲ 42	452 +14	386 ▲ 66	420 +34
渡島	2,775	2,930 +155	2,718 ▲ 212	2,660 ▲ 58	2,673 +13	2,486 ▲ 187	2,454 ▲ 32	2,323 ▲ 131
檜山	225	192 ▲ 33	208 +16	212 +4	201 ▲ 11	168 ▲ 33	172 +4	149 ▲ 23
上川南	3,341	3,318 ▲ 23	3,239 ▲ 79	3,220 ▲ 19	3,203 ▲ 17	3,084 ▲ 119	3,120 +36	2,946 ▲ 174
上川北	447	426 ▲ 21	426 ±0	388 ▲ 38	390 +2	384 ▲ 6	340 ▲ 44	321 ▲ 19
留萌	308	280 ▲ 28	270 ▲ 10	284 +14	263 ▲ 21	257 ▲ 6	238 ▲ 19	217 ▲ 21
宗谷	461	450 ▲ 11	424 ▲ 26	406 ▲ 18	393 ▲ 13	398 +5	382 ▲ 16	361 ▲ 21
オホーツク中	1,150	1,186 +36	1,107 ▲ 79	1,184 +77	1,077 ▲ 107	1,126 +49	1,064 ▲ 62	942 ▲ 122
オホーツク東	450	501 +51	480 ▲ 21	468 ▲ 12	487 +19	432 ▲ 55	436 +4	384 ▲ 52
オホーツク西	423	400 ▲ 23	379 ▲ 21	419 +40	422 +3	373 ▲ 49	384 +11	376 ▲ 8
十勝	2,878	2,827 ▲ 51	2,740 ▲ 87	2,703 ▲ 37	2,731 +28	2,614 ▲ 117	2,520 ▲ 94	2,481 ▲ 39
釧路	1,795	1,643 ▲ 152	1,586 ▲ 57	1,598 +12	1,503 ▲ 95	1,403 ▲ 100	1,381 ▲ 22	1,357 ▲ 24
根室	637	616 ▲ 21	582 ▲ 34	530 ▲ 52	587 +57	533 ▲ 54	519 ▲ 14	455 ▲ 64
合計	41,178	41,012 ▲ 166	40,083 ▲ 929	39,996 ▲ 87	39,197 ▲ 799	38,128 ▲ 1,069	37,922 ▲ 206	36,938 ▲ 984

※中学校卒業生数は、令和5年（2023年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和5年（2023年）は実数、令和6年（2024年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和12年（2030年））

（注） 1 昭和62年（1987年）～令和5年（2023年）は実卒業生数である。
 2 令和6年（2024年）～令和12年（2030年）は学校基本調査（令和5年（2023年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業生数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業生数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	40,983	41,845	41,178	41,012	40,083
増減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,513	+862	-667	-166	-929

年	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)
卒業生数	39,996	39,197	38,128	37,922	36,938
増減	-87	-799	-1,069	-206	-984

Ⅲ 公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画													
区分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減			
学区内中卒者数	1,098	996	1,049	1,026	998	925	970	894	▲ 204	▲ 132			
対前年増減		▲ 102	+ 53	▲ 23	▲ 28	▲ 73	+ 45	▲ 76					
岩見沢市中卒者数	(608)	(578)	(579)	(598)	(585)	(524)	(553)	(503)	▲ 105	▲ 95			
対前年増減		▲ 30	+ 1	+ 19	▲ 13	▲ 61	+ 29	▲ 50					
美唄市中卒者数	(130)	(116)	(124)	(106)	(93)	(99)	(98)	(100)	▲ 30	▲ 6			
対前年増減		▲ 14	+ 8	▲ 18	▲ 13	+ 6	▲ 1	+ 2					
三笠市中卒者数	(38)	(45)	(46)	(46)	(32)	(45)	(34)	(37)	▲ 1	▲ 9			
対前年増減		+ 7	+ 1	± 0	▲ 14	+ 13	▲ 11	+ 3					
夕張市中卒者数	(33)	(36)	(29)	(24)	(33)	(25)	(22)	(19)	▲ 14	▲ 5			
対前年増減		+ 3	▲ 7	▲ 5	+ 9	▲ 8	▲ 3	▲ 3					
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し			摘要		
岩見沢東	5→4		4	7	普+1 (計画変更)	普▲5		○4年間で3～4学級に相当する中卒者の減 ○市町ごとの中卒者の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○地域連携校について、再編整備を留保されている場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要			月形、夕張の協力校 R 5 (2023)入選第2次募集後学級減		
(岩見沢東)	(1)		(1)	(30)		(普▲1)							
単 岩見沢西	3		3	19		普▲3							
新設校					普+6 単位制導入 普通科新学科設置								岩見沢西高校校舎を使用
(新設校)					(普+1)								
岩見沢農業		農 7	7	69									
*岩見沢緑陵	3	商 2	5	13		普+1							
総 美唄尚栄	2		2	14									
美唄聖華		看 2	2	26									
*三 笠		家 1	1	14									
地 月 形	1		1	33						再編整備留保			
地 夕 張	1		1	25						再編整備留保			
長 沼	2→1		1	4	普+1 (計画変更)					R 5 (2023)入選第2次募集後学級減			
栗 山	2		2	30									
11校	19 →17	12	29	254	普+2	普▲8 普+7							

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「ア」はアンビシャススクール、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携校。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 令和5年度(2023年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

注5 「令和9～12年度(2027～2030年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和12年(2030年)と令和8年(2026年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

注6 新設校(岩見沢市内)の学科は、普通科新学科2学級、普通科4学級を設置する。(新学科の名称は引き続き検討)

注7 ()は定時制課程で計欄に含まない。(岩見沢東及び新設校(岩見沢市内))

空知北学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	870	832	826	819	767	722	742	723	▲ 147	▲ 96
対前年増減		▲ 38	▲ 6	▲ 7	▲ 52	▲ 45	+ 20	▲ 19		
滝川市中卒者数	(302)	(276)	(290)	(287)	(293)	(242)	(253)	(228)	▲ 74	▲ 59
対前年増減		▲ 26	+ 14	▲ 3	+ 6	▲ 51	+ 11	▲ 25		
砂川市中卒者数	(121)	(119)	(107)	(107)	(86)	(96)	(77)	(95)	▲ 26	▲ 12
対前年増減		▲ 2	▲ 12	± 0	▲ 21	+ 10	▲ 19	+ 18		
歌志内市中卒者数	(15)	(13)	(11)	(4)	(11)	(8)	(7)	(3)	▲ 12	▲ 1
対前年増減		▲ 2	▲ 2	▲ 7	+ 7	▲ 3	▲ 1	▲ 4		
戸別市中卒者数	(57)	(66)	(62)	(62)	(52)	(57)	(54)	(53)	▲ 4	▲ 9
対前年増減		+ 9	▲ 4	± 0	▲ 10	+ 5	▲ 3	▲ 1		
赤平市中卒者数	(63)	(49)	(52)	(42)	(49)	(37)	(43)	(35)	▲ 28	▲ 7
対前年増減		▲ 14	+ 3	▲ 10	+ 7	▲ 12	+ 6	▲ 8		
深川市中卒者数	(126)	(117)	(120)	(120)	(102)	(117)	(120)	(118)	▲ 8	▲ 2
対前年増減		▲ 9	+ 3	± 0	▲ 18	+ 15	+ 3	▲ 2		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度(2027～2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 滝 川	5		5	7				○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○滝川市内において、欠員の状況等を考慮し、公立高校全体での再編を含めた早急な配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となり、その後生徒数の増が見込まれない場合は、定時制課程の配置状況を考慮しながら、再編整備の検討が必要(滝川)		
滝川工業		工 2	2	50						
*滝川西	3	商 3	6	25						
単 砂 川	2		2	15						
奈井江商業		商 1	1	35		商▲1				
新十津川農業		農 1	1	11						
戸 別	2		2	26						
深川西	3→2		2	0	普+1 (計画変更)					
深川東		農 1 商 1	2	45		商▲1				
9校	15 →14	9	23	214	普+1	商▲1	商▲1			R 5 (2023)入選第2次募集後学級減

石狩学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	19,400	19,529	19,272	19,407	18,926	18,728	18,877	18,882	▲ 518	▲ 525
対前年増減		+ 129	▲ 257	+ 135	▲ 481	▲ 198	+ 149	+ 5		
札幌市中卒者数	(15,462)	(15,507)	(15,382)	(15,562)	(15,089)	(14,977)	(15,060)	(15,076)	▲ 386	▲ 486
対前年増減		+ 45	▲ 125	+ 180	▲ 473	▲ 112	+ 83	+ 16		
江別市中卒者数	(1,119)	(1,181)	(1,116)	(1,187)	(1,174)	(1,146)	(1,213)	(1,189)	+ 70	+ 2
対前年増減		+ 62	▲ 65	+ 71	▲ 13	▲ 28	+ 67	▲ 24		
千歳市中卒者数	(866)	(925)	(873)	(855)	(880)	(841)	(871)	(835)	▲ 31	▲ 20
対前年増減		+ 59	▲ 52	▲ 18	+ 25	▲ 39	+ 30	▲ 36		
恵庭市中卒者数	(679)	(628)	(649)	(632)	(617)	(601)	(625)	(612)	▲ 67	▲ 20
対前年増減		▲ 51	+ 21	▲ 17	▲ 15	▲ 16	+ 24	▲ 13		
北広島市中卒者数	(629)	(576)	(624)	(561)	(572)	(563)	(541)	(601)	▲ 28	+ 40
対前年増減		▲ 53	+ 48	▲ 63	+ 11	▲ 9	▲ 22	+ 60		
石狩市中卒者数	(534)	(579)	(503)	(515)	(486)	(497)	(468)	(468)	▲ 66	▲ 47
対前年増減		+ 45	▲ 76	+ 12	▲ 29	+ 11	▲ 29	± 0		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	0				○4年間で公私比率動案後8～9学級に相当する中卒者の減 ○市区町村ごとの中卒者の状況、欠員の状況を考慮し、札幌市の整備計画も踏まえた上で、札幌市内の再編整備も含めた配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		
札幌西	8		8	-3						
札幌南	8		8	-3						
札幌北	8		8	-1						
札幌月寒	8		8	0						
札幌啓成	8		8	0						
札幌北陵	8		8	0						
単 札幌手稲	8		8	0						
札幌丘珠	7		7	13						
札幌西陵	7		7	25						
単 札幌白石	7		7	0						
単 札幌東陵	7		7	18						
札幌南陵	2		2	7						
札幌東豊	3		3	15						
総 札幌厚別	7		7	-2						
札幌真栄	5		5	0						
フ 札幌あすかぜ	3		3	0		〔普通科フィールド制を普通科に転換〕				
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	-1		〔普通科フィールド制を普通科に転換〕				
単 札幌英藍	7		7	0						

学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度(2027～2030年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	3→2		2	2	[単位制を 学年制に転換]				R5(2023)入選第2次募 集後学級減
札幌国際情報	4	工 1 商 3	8	-3					
江 別	5	商 1 家 1	7	0					
ア 野 幌	3→2		2	1	普+1 (計画変更)				R5(2023)入選第2次募 集後学級減
単 大 麻	7		7	-1					
千 歳	6	商 2	8	0					
総 ア 千歳北陽	4		4	36					
単 北 広 島	7		7	0					
北広島西	5→4		4	2					R5(2023)入選第2次募 集後学級減
石 狩 南	7		7	0					
当 別	1	農 1 家 1	3	71					
恵 庭 南	7		7	27					
恵 庭 北	6		6	13					
札幌工業		工 8	8	38					
札幌琴似工業		工 8	8	3					
札幌東商業		商 8	8	0					
総 石狩翔陽	8→7		7	3	総+1 (計画変更)				R5(2023)入選第2次募 集後学級減
単 *市立札幌旭丘	8		8	-3					
単 *市立札幌藻岩	6		6	-1					
*市立札幌平岸	8		8	0					
単 *市立札幌清田	6		6	0					
中 等 *市立札幌開成	4		4	9					
*市立札幌新川	8		8	-1					
*市立札幌啓北商業		商 6	6	0					
44校	245→ 241	40	281	264	普+1 総+1				

後志学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	1,395	1,371	1,378	1,347	1,306	1,255	1,291	1,152	▲ 243	▲ 195
対前年増減		▲ 24	+ 7	▲ 31	▲ 41	▲ 51	+ 36	▲ 139		
小樽市中卒者数	(723)	(728)	(726)	(690)	(682)	(626)	(629)	(590)	▲ 133	▲ 100
対前年増減		+ 5	▲ 2	▲ 36	▲ 8	▲ 56	+ 3	▲ 39		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度 (2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	5		5	-3				○4年間で公私比率助産後3~4学級に相当する中卒者の減		
単 小樽桜陽	5		5	0				○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要		
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	26				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		
小樽水産		水 4	4	21				○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、定時制課程の配置状況を考慮しながら、再編整備の検討が必要（小樽市内）		
総 余市紅志	2→1		1	11						R 5 (2023)入選第2次募集後学級減
単 岩 内	2	商 1	3	53						寿都の協力校
地 寿 都	1		1	22						
単 倶 知 安	4→3		3	4	普+1 (計画変更)					蘭越の協力校 R 5 (2023)入選第2次募集後学級減
地 蘭 越	1		1	20						
倶知安農業		農 1	1	18						
(*ニセコ)		(農1)	(1)	(17)			[総合学科に転換]			
10校	20 →18	10	28	172	普+1					

注 () は定時制課程で計欄に含まない。(ニセコ)

胆振西学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	1,350	1,333	1,222	1,192	1,201	1,179	1,059	1,044	▲ 306	▲ 148
対前年増減		▲ 17	▲ 111	▲ 30	+ 9	▲ 22	▲ 120	▲ 15		
室蘭市中卒者数	(548)	(567)	(518)	(510)	(526)	(510)	(449)	(441)	▲ 107	▲ 69
対前年増減		+ 19	▲ 49	▲ 8	+ 16	▲ 16	▲ 61	▲ 8		
登別市中卒者数	(419)	(397)	(357)	(358)	(348)	(354)	(311)	(297)	▲ 122	▲ 61
対前年増減		▲ 22	▲ 40	+ 1	▲ 10	+ 6	▲ 43	▲ 14		
伊達市中卒者数	(284)	(272)	(253)	(218)	(241)	(221)	(219)	(203)	▲ 81	▲ 15
対前年増減		▲ 12	▲ 19	▲ 35	+ 23	▲ 20	▲ 2	▲ 16		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
室 蘭 栄	5		5	0				○4年間で公私比率助案後2～3学級に相当する中卒者の減		
単 室蘭清水丘	4		4	20				○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮し、最も学校・学級数が多い室蘭市を中心に、周辺市を含め、再編整備を含めた配置の在り方の検討が必要		
総 室蘭東翔	4		4	0						
室蘭工業		工 4	4	77		工▲1				
単 登別青嶺	3		3	20						
中 登別明日	2		2	7						
単 伊達開来	6		6	32						虻田の協力校
地 虻 田		商 1	1	20						
*壮 警		農 1	1	28						
9校	24	6	30	204		工▲1				

胆振東学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	1,661	1,691	1,708	1,653	1,631	1,609	1,587	1,511	▲ 150	▲ 142
対前年増減		+ 30	+ 17	▲ 55	▲ 22	▲ 22	▲ 22	▲ 76		
苫小牧市中卒者数	(1,452)	(1,468)	(1,459)	(1,434)	(1,434)	(1,394)	(1,393)	(1,328)	▲ 124	▲ 106
対前年増減		+ 16	▲ 9	▲ 25	± 0	▲ 40	▲ 1	▲ 65		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度 (2027~2030年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計					○4年間で公私比率助産後2~3学級に相当する中卒者の減 ○これまでの定員調整の状況や学校・学科の配置状況などを考慮し、苫小牧市内及び周辺町において、再編整備を含めた配置の在り方の検討が必要 ○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合(旧指針下から20人未満を継続している高校については、生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要)		
苫小牧東	6		6	0					厚真の協力校	
苫小牧西	4		4	0					穂別の協力校	
単 苫小牧南	4		4	1						
苫小牧工業		工 6	6	4						
苫小牧総合経済		商 3	3	0						
白老東	2		2	26						
地 厚 真	1		1	12						
地 穂 別	1		1	28		普▲1				
追 分	1		1	24						
中高 鷗 川	2→1		1	1	普+1 (計画変更)			R 5 (2023)入選第2次募集後学級減		
10校	21 →20	9	29	96	普+1	普▲1				

日高学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	514	491	469	480	438	452	386	420	▲ 94	▲ 60
対前年増減		▲ 23	▲ 22	+ 11	▲ 42	+ 14	▲ 66	+ 34		
浦河町中卒者数	(95)	(100)	(68)	(99)	(69)	(72)	(61)	(75)	▲ 20	▲ 24
対前年増減		+ 5	▲ 32	+ 31	▲ 30	+ 3	▲ 11	+ 14		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計					○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要	平取の協力校 再編整備留保	
単 静 内	5		5	33						
静内農業		農 2	2	17						
富 川	1		1	15						
地 平 取	1		1	27						
総 浦 河	3		3	16						
中高 *えりも	2		2	43						
6校	12	2	14	151						

渡島学区高校配置計画

区分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	2,775	2,930	2,718	2,660	2,673	2,486	2,454	2,323	▲ 452	▲ 337
対前年増減		+ 155	▲ 212	▲ 58	+ 13	▲ 187	▲ 32	▲ 131		
函館市中卒者数	(1,768)	(1,884)	(1,749)	(1,735)	(1,741)	(1,588)	(1,612)	(1,532)	▲ 236	▲ 203
対前年増減		+ 116	▲ 135	▲ 14	+ 6	▲ 153	+ 24	▲ 80		
北斗市中卒者数	(425)	(450)	(380)	(367)	(368)	(368)	(305)	(325)	▲ 100	▲ 42
対前年増減		+ 25	▲ 70	▲ 13	+ 1	± 0	▲ 63	+ 20		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度(2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
函館中部	5		5	0				○4年間で公私比率助産後5~6学級に相当する中卒者の減		南茅部の協力校
単 函館西	6		6	0				○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内及び周辺市町において、配置の在り方の検討が必要		松前の協力校
単 *市立函館	5		5	0				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		
函館水産		水 4	4	64			水▲1	○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合(旧指針下から20人未満を継続している高校については、生徒数の増が見込まれない場合)は、再編整備の検討が必要		福島商業の協力校
函館商業		商 4	4	0				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要		再編整備留保
函館工業		工 5	5	1				○地域連携校について、再編整備を留保されている場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要		
地 南茅部	1		1	31						
上磯	1		1	25						
七飯	3		3	26						
大野農業		農 3	3	65						
地 松前	1		1	26						
*知内	2		2	34						
地 福島商業		商 1	1	31						再編整備留保
八雲	2	商 1	3	63						長万部の協力校
総 森	1		1	7						
地 長万部	1		1	23						再編整備留保
16校	28	18	46	396			水▲1			

檜山学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	225	192	208	212	201	168	172	149	▲ 76	▲ 63
対前年増減		▲ 33	+ 16	+ 4	▲ 11	▲ 33	+ 4	▲ 23		
江差町中卒者数	(55)	(44)	(38)	(39)	(34)	(33)	(34)	(25)	▲ 30	▲ 14
対前年増減		▲ 11	▲ 6	+ 1	▲ 5	▲ 1	+ 1	▲ 9		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度(2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で1~2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の 高校配置の在り方について検討が必要		上ノ国の協力校
単 江 差	2		2	17						再編整備留保
地 上ノ国	1		1	21						
総 檜山北	2		2	21						
中高 *奥 尻	1		1	25						
4校	6	0	6	84						

上川南学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
	学区内中卒者数	3,341	3,318	3,239	3,220	3,203	3,084	3,120	2,946	▲ 395
対前年増減		▲ 23	▲ 79	▲ 19	▲ 17	▲ 119	+ 36	▲ 174		
旭川市中卒者数	(2,565)	(2,576)	(2,507)	(2,455)	(2,475)	(2,359)	(2,401)	(2,280)	▲ 285	▲ 175
対前年増減		+ 11	▲ 69	▲ 52	+ 20	▲ 116	+ 42	▲ 121		
富良野市中卒者数	(160)	(161)	(144)	(178)	(153)	(159)	(146)	(115)	▲ 45	▲ 63
対前年増減		+ 1	▲ 17	+ 34	▲ 25	+ 6	▲ 13	▲ 31		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度 (2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
旭川東	6		6	0				○4年間で公私比率助産後4~5学級に相当する中卒者の減		
単 旭川西	5		5	0				○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内及び周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要		
単 旭川北	5		5	-1				○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合(旧指針下から20人未満を継続している高校については、生徒数の増が見込まれない場合)は、再編整備の検討が必要		
総 旭川南	5		5	1						
単 旭川永嶺	5		5	-1						
旭川商業		商 5	5	6				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要		
旭川工業		工 6	6	15						
旭川農業		農 4	4	20						
鷹 栖	1		1	9						
東 川	2		2	28						
美 瑛	1		1	25						
中高 上 川	1		1	16						
単 富良野	4→3		3	11	普+1 (計画変更)	普▲4				R 5 (2023)入選第2次募集後学級減
富良野緑峰		商 1 農 1 工 1	3	73		商▲1 工▲1 農▲1				
新設校						普+3 工+1 農+1 〔単位制導入〕				富良野緑峰高校校舎を使用
上富良野	1		1	11						
*南富良野	1		1	26						
16校	37→ 36	18	54	239	普+1	普▲4 商▲1 工▲1 農▲1 普+3 工+1 農+1				

上川北学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	447	426	426	388	390	384	340	321	▲ 126	▲ 67
対前年増減		▲ 21	± 0	▲ 38	+ 2	▲ 6	▲ 44	▲ 19		
士別市中卒者数	(140)	(117)	(128)	(108)	(117)	(83)	(98)	(85)	▲ 55	▲ 23
対前年増減		▲ 23	+ 11	▲ 20	+ 9	▲ 34	+ 15	▲ 13		
名寄市中卒者数	(198)	(199)	(180)	(170)	(181)	(192)	(162)	(165)	▲ 33	▲ 5
対前年増減		+ 1	▲ 19	▲ 10	+ 11	+ 11	▲ 30	+ 3		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度 (2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で1~2学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		下川商業の協力校
士別翔雲	3	商 1	4	54						美深の協力校 R 5 (2023) 入選第2次募集後学級減
地 下川商業		商 1	1	13						
単 名 寄	4→3	工 1	4	31	普+1 (計画変更)					
地 美 深	1		1	15						
総 *剣 淵	1		1	15						
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	0						
6校	10→ 9	3	12	128	普+1					

留萌学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	308	280	270	284	263	257	238	217	▲ 91	▲ 67
対前年増減		▲ 28	▲ 10	+ 14	▲ 21	▲ 6	▲ 19	▲ 21		
留萌市中卒者数	(150)	(124)	(118)	(117)	(128)	(96)	(100)	(102)	▲ 48	▲ 15
対前年増減		▲ 26	▲ 6	▲ 1	+ 11	▲ 32	+ 4	+ 2		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 留 萌	4	工 1 商 1	6	95		(工業科・商業科 単位制導入)		○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、早急に定員を含む学科構成の在り方 について検討が必要		苫前商業、天塩の協力校
羽 幌	2		2	23				○地域連携校について、再編整備を留保され ている場合であっても、5月1日現在の第 1学年の在籍数が2年連続して10人未 満となった場合は、再編整備を進めること としているため、本年度10人未満となっ ている高校については、生徒数の確保に向 け、一層魅力ある高校づくりが必要		
地 苫前商業		商 1	1	32						
地 天 塩	1		1	13						
遠別農業		農 1	1	14						
5校	7	4	11	177						

宗谷学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	461	450	424	406	393	398	382	361	▲ 100	▲ 45
対前年増減		▲ 11	▲ 26	▲ 18	▲ 13	+ 5	▲ 16	▲ 21		
稚内市中卒者数	(237)	(231)	(215)	(226)	(208)	(215)	(211)	(204)	▲ 33	▲ 22
対前年増減		▲ 6	▲ 16	+ 11	▲ 18	+ 7	▲ 4	▲ 7		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で公私比率助産後0～1学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要		豊富の協力校 普通科、商業科単位制
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	57						豊富の協力校 普通科、商業科単位制
地 豊 富	1		1	25						再編整備留保
浜 頓 別	1		1	8						
枝 幸	2		2	38						
利 尻	1	商 1	2	62	商▲1					
礼 文	1		1	24						
6校	9	3	12	214	商▲1					

オホーツク中学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	1,150	1,186	1,107	1,184	1,077	1,126	1,064	942	▲ 208	▲ 242
対前年増減		+ 36	▲ 79	+ 77	▲ 107	+ 49	▲ 62	▲ 122		
北見市中卒者数	(913)	(923)	(840)	(906)	(827)	(858)	(832)	(742)	▲ 171	▲ 164
対前年増減		+ 10	▲ 83	+ 66	▲ 79	+ 31	▲ 26	▲ 90		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度(2027～2030年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計					○4年間で公私比率動案後5～6学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内及び周辺町における圏域での学校・学科の在り方など、再編整備を含めた配置の在り方の検討が必要 ○地域連携校について、再編整備を留保されている場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要		
北見北斗	6		6	1					常呂の協力校	
単 北見柏陽	5		5	0					佐呂間の協力校	
単 北見緑陵	3		3	0						
北見工業		工 3	3	31						
北見商業		商 3	3	22						
置 戸		福 1	1	29					再編整備留保	
総 留 辺 薬	1		1	18	総▲1					
地 佐 呂 間	1		1	20						
地 常 呂	1		1	34					再編整備留保	
訓 子 府	1		1	10						
地 津 別	1		1	18						
美 幌	2→1	農 1	2	34	普+1 (計画変更)			津別の協力校 R 5 (2023)入選第2次募集後学級減		
12校	21→20	8	28	217	普+1 総▲1					

※留辺薬については、令和4年度(2022年度)策定の高校配置計画により、特色ある教育活動の一部を近隣校に引き継ぐため、募集停止をR5からR6に1年間延期。

オホーツク東学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	450	501	480	468	487	432	436	384	▲ 66	▲ 84
対前年増減		+ 51	▲ 21	▲ 12	+ 19	▲ 55	+ 4	▲ 52		
網走市中卒者数	(244)	(257)	(260)	(251)	(254)	(222)	(227)	(175)	▲ 69	▲ 76
対前年増減		+ 13	+ 3	▲ 9	+ 3	▲ 32	+ 5	▲ 52		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要		清里の協力校
単 網走南ヶ丘	4		4	2						
網走桂陽	2	商 2	4	74						
総 斜 里	1		1	10						
地 清 里	1		1	2						
総 *大 空	1		1	6						
5校	9	2	11	94						

オホーツク西学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
学区内中卒者数	423	400	379	419	422	373	384	376	▲ 47	▲ 43
対前年増減		▲ 23	▲ 21	+ 40	+ 3	▲ 49	+ 11	▲ 8		
紋別市中卒者数	(143)	(131)	(113)	(136)	(146)	(114)	(131)	(126)	▲ 17	▲ 10
対前年増減		▲ 12	▲ 18	+ 23	+ 10	▲ 32	+ 17	▲ 5		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度 (2027～2030年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
単 遠 軽	5		5	34				○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減		
紋 別	3	商 1 工 1	5	66				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要	興部、雄武の協力校	
地 興 部	1		1	33				○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要	再編整備留保	
地 雄 武	1		1	19						
中高 湧 別	2→1		1	0	普+1 (計画変更)			○地域連携校について、再編整備を留保されている場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要	R 5 (2023)入選第2次募集後学級減	
5校	12→11	2	13	152	普+1					

十勝学区高校配置計画

区分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	2,878	2,827	2,740	2,703	2,731	2,614	2,520	2,481	▲ 397	▲ 222
対前年増減		▲ 51	▲ 87	▲ 37	+ 28	▲ 117	▲ 94	▲ 39		
帯広市中卒者数	(1,317)	(1,334)	(1,313)	(1,276)	(1,341)	(1,278)	(1,207)	(1,233)	▲ 84	▲ 43
対前年増減		+ 17	▲ 21	▲ 37	+ 65	▲ 63	▲ 71	+ 26		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度 (2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
帯広柏葉	6		6	-1				○4年間で公私比率助産後4~5学級に相当する中卒者の減 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備も含めた配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要	本別の協力校	
単 帯広三条	6		6	0						
帯広緑陽	4		4	-1						
帯広工業		工 4	4	21						
帯広農業		農 5	5	6						
*帯広南商業		商 5	5	0						
単 音 更	3		3	27						
芽 室	4		4	0						
帯別清陵	3		3	9						
上 土 幌	2		2	9						
*土 幌		農 2	2	32						
総 清 水	3→2		2	13	総+1 (計画変更)					R 5 (2023)入選第2次募集後学級減
中高 鹿 追	2		2	28						
更別農業		農 2	2	50						
大 樹	1		1	7	(普通科新学科に転換)					
中高 広 尾	2→1		1	17					R 5 (2023)入選第2次募集後学級減	
総 池 田	2→1		1	7	総+1 (計画変更)				R 5 (2023)入選第2次募集後学級減	
地 本 別	1		1	5						
足 寄	2		2	27						
19校	41→ 38	18	56	256	総+2					

注 大樹は、令和6年度(2024年度)に普通科1学級を地域社会に関する普通科新学科である地域探究科1学級に転換する。

釧路学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6～12 (2024～2030) 年までの増減	令和9～12 (2027～2030) 年までの増減
	学区内中卒者数	1,795	1,643	1,586	1,598	1,503	1,403	1,381	1,357	▲ 438
対前年増減		▲ 152	▲ 57	+ 12	▲ 95	▲ 100	▲ 22	▲ 24		
釧路市中卒者数	(1,349)	(1,204)	(1,176)	(1,191)	(1,136)	(1,047)	(1,018)	(998)	▲ 351	▲ 193
対前年増減		▲ 145	▲ 28	+ 15	▲ 55	▲ 89	▲ 29	▲ 20		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9～12年度(2027～2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
釧路湖陵	6		6	0	普▲1 (普通科新学科に転換)			○4年間で公私比率動案後5～6学級に相当する中卒者の減		阿寒の協力校
単 釧路江南	5		5	0				○これまでの定員調整の状況や学校・学科の配置状況などを考慮し、釧路市内及び周辺町における圏域での学校・学科の在り方など、再編整備を含めた公立高校全体での配置の在り方の検討が必要		弟子屈の協力校
釧路商業		商 4	4	0	商▲1			○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要		
釧路工業		工 5	5	27				○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合(旧指針下から20人未満を継続している高校については、生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要)		
総 釧路明輝	5		5	1	総▲1					
単 *釧路北陽	5		5	2						
釧路東	3		3	33	普▲1					
地 阿 寒	1		1	17						
白 糠	1		1	22						
総 標 茶	2		2	16						
地 弟 子 屈	1		1	22						
厚岸翔洋	1	水 1	2	55						
*霧 多 布	2		2	41						
13校	32	10	42	236	普▲2 商▲1 総▲1					

注 釧路湖陵は、令和6年度(2024年度)に普通科5学級を1学級減じた上で、学際領域に関する普通科新学科である文理探究科に転換し、理数科1学級を理数探究科1学級に転換する。

根室学区高校配置計画

区 分	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	令和6~12 (2024~2030) 年までの増減	令和9~12 (2027~2030) 年までの増減
学区内中卒者数	637	616	582	530	587	533	519	455	▲ 182	▲ 75
対前年増減		▲ 21	▲ 34	▲ 52	+ 57	▲ 54	▲ 14	▲ 64		
根室市中卒者数	(189)	(178)	(153)	(139)	(149)	(137)	(154)	(132)	▲ 57	▲ 7
対前年増減		▲ 11	▲ 25	▲ 14	+ 10	▲ 12	+ 17	▲ 22		
学校名	令和5年度 (2023年度)の状況 学科及び募集学級数			R 5 (2023) 欠員	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9~12年度(2027~2030年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 根 室	3	商 2	5	49				○4年間で1~2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員 の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、 定員を含む学科構成の在り方について 検討が必要	R5(2023)入選第2次募 集後学級減 標津、羅臼の協力校	
別 海	3→2	農 1	3	44	普+1 (計画変更)					
中 標 津	4	商 1	5	33						
地 標 津	1		1	19						
*中標津農業		農 2	2	45						
中 高 地 羅 臼	1		1	22						
6校	11	6	17	212	普+1					